

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「光洋×富士通、一般向け生体認証使用“レジなし店舗”横浜で実験開始」
- 2) 「UberEats、プロ向け食材を家庭に 珍味など100種超」
- 3) 「個人間のモノの無償貸し借り支援サービス“Rentastic!”提供開始！」

1) 「光洋×富士通、一般向け生体認証使用“レジなし店舗”横浜で実験開始」

光洋ショップ・プラスと富士通は1月15日、光洋が運営するコンビニエンスストア「グリーンリーブスプラス横浜テクノタワーホテル店」（神奈川県横浜市）にて、一般顧客に向けて、生体認証技術による本人確認を行うレジなし店舗の実証実験を開始する。

富士通は光洋向けにレジレスソリューションZippinとマルチ生体認証を活用したレジレスシステムを構築した。

光洋は、同システムを活用することで、支払い時における購入者と店員との接触防止による新型コロナウイルス感染症対策への効果、レジなし店舗において品揃えの最適化、レジ待ちストレスの解消による顧客満足度の高い購買空間の提供について検証する。

来店客は事前にスマートフォンアプリ「GreenLeaves+アプリ」をダウンロードしクレジットカードの情報を登録した後、アプリに表示されたQRコードで入店。入店後は、店内に設置されたカメラ、重量センサーなどのIoTとクラウド上のAIを組み合わせることにより来店客の動きや購入商品を判別する。

来店客は、そのまま退店することで自動的に決済が完了し、スマートフォンに送られる電子レシートで購入履歴を確認できる。

さらに、手のひら静脈と顔情報のみで本人を特定できるマルチ生体認証技術を活用し、手のひら静脈と顔の情報をスマートフォンアプリと紐づけて事前に登録することで、スマートフォンを使用することなく手ぶらでの入店が可能になるという。

なお、光洋は、2021年4月1日から同店舗での本運用を開始する予定だ。

今後、光洋は全国の病院・施設内のコンビニエンスストアやレストラン、カフェの運営ノウハウを活かし、レジなし店舗とのシナジー効果が見込めるユニークな複合店舗の開発を目指す。

2024年までの3年間で、病院職員向け店舗、マイクロマーケットなどで、高い売り場効率が期待できる店舗を中心に30店舗以上へのレジレスシステムの導入を計画している。

富士通は、光洋の病院向けレジなし店舗展開に向けて、技術と運用の両面から幅広く支援し、レジなし店舗という新しい購買体験の実用化に貢献していく。

(2021/1/14 流通ニュース)

昨年から急ピッチで実証実験やテストを行っているレジレスシステムだが、本年はいよいよ本運用、他店舗展開に向け急加速していく時期ではないだろうか。人手が必須な大型スーパーよりも先に、駅や病院などの小さな商店からこういったIoTを活用した店舗に変えていくことで様々な面でコスト削減にも繋がるだろう。今後の展開にも注目したい。

2) 「ウーバーイーツ、プロ向け食材を家庭に 珍味など100種超」

米ウーバーテクノロジーズは日本国内の料理宅配サービス「ウーバーイーツ」で、食品卸会社がレストランなどに提供している「プロ向け食材」の家庭向け配送を1月中に始める。食品卸の永和物産（東京・墨田）と提携し、同社が扱う食材をまず東京都東部で配達できるようにする。今後、提携企業を増やし、配達地域も広げる方針だ。

永和物産が東京都江戸川区に持つ物流拠点からおよそ30分以内に配達できる地域を対象にして、レストランやホテル向けのプロ食材の取り扱いを始める。イタリア産の乾燥魚卵やアルゼンチン産の塩といった、一般家庭ではなじみが薄い国内外の珍味や果物、調味料など100種類以上を注文できるようになるという。

ウーバーイーツは現在、7万店超の加盟店を持つが、卸食材の取扱いは初めて。新型コロナウイルスの感染拡大で外食産業が打撃を受けるなか、食品卸も売り上げ確保に苦戦している。需要を補える新たな食品流通のかたちとして、ウーバーは食品卸に積極的に提携を呼びかける。食品以外の卸売品も取り扱いを増やす考えだ。

（2021/1/18 日本経済新聞）

コロナ禍で飲食店が打撃を受けていることは一目瞭然だが、それと紐付いた企業もかなりの数影響を受けていることを忘れてはならない。食品以外の卸売品も対応するとのことなので、少しでも救済に繋がることを期待している。ただ打撃を受けているのは飲食業界だけでなくそれぞれに救済措置が必要だが、行政の対応だけでは追いつかない部分もあるだろう。内々で助け合えるアイデアを出していかなければならないと感じた。

3) 「個人間のモノの無償貸し借り支援サービス “Rentastic!” 提供開始！」

株式会社電通グループの100%直接出資子会社である株式会社カローゼットは、クローズドなコミュニティ内の会員同士が無償でモノを貸し借りし合うのを支援する「Rentastic!（レントスティック）」の提供を開始した。

「Rentastic!」では、レンタル料無料で自分のモノを貸し出すと、「Renta!」というコインが貸した日数分付与される。この「Renta!」を使うことで今度は自分が人のモノを無料で借りられるという仕組みだ。

同サービスを通じ、特定の企業やマンション、街などの導入コミュニティの活性化やユーザーの生活利便性向上、経済負担の低減などに貢献していきたいとしている。

例えば、めったに使わないスーツケースを「7日間」貸し出すと「7Renta!」が手に入る。この「Renta!」のうち、「3Renta!」を使ってロボット掃除機を無料で借り、残りの「4Renta!」で一瞬レフカメラを無料レンタルするという使い方が可能だ。

ユーザーは、「ファッション」「ベビー・キッズ」「DIY」「家電」など貸し出したいアイテムを自由に登録することができる。また、プロオーナー制度があり、企業が新商品など試してもらいたいアイテムを登録しているのも魅力的。もちろん「Renta!」を使い無料でレンタル可能だ（アンケートなど条件が設定されている場合もある）。

こういったCtoCレンタルのポイントとなるのが「ユーザーの安心感」だろう。

クローズドなコミュニティ内での貸し借りという安心感にくわえ、「自分のモノが壊されたら？」もしくは「借りているものを失くしたり壊したりしたら？」という不安を払拭してくれそうなのが自動付帯される保険。これは、1ユーザー当たり年間最大10万円まで借りたアイテムへの損害が補償されるというものだ。

同サービスは現在「Fujisawaサスティナブル・スマートタウン」や三菱地所グループの「泉パークタウン」などに導入されている。
サービスが広がれば、「お醤油を切らしちゃったから少し分けてもらえる?」「この前のお礼におすそ分け」などという昔からある日本の隣人同士の相互扶助の関係がテクノロジーを介して現代風に蘇るかもしれない。

なお、この「自己所有資産を貸した時間分だけ、人の資産を無償で借りられる権利が与えられる」という独自のモデルを独占的にサービス提供可能となる特許は2020年に登録済とのこと。

(2021/1/13 TECHABLE)

個人間の貸し借りで問題が起こると厄介だが、こうして間に入れてくれて尚かつ保険もあるということであれば安心感があるし、自分の付き合いのある人以外からも物を借りることができるので、うまくはまれば有効的に使えるのではないか。ゴミを出さない=物を買わないという選択肢も環境負荷軽減の一つなので、広く浸透してもらいたいサービスであると思う。